

# 「格差社会と貧困」

## ～私たちの向き合い方～

平成30年度 3年1組(21) 高宮 渉  
指導 法文学部人文社会学科 新関 剛史

### はじめに

現在、メディアなどで格差や貧困について取り上げられることが多々ある。そのような中、本当に世間が騒ぐほどの経済格差や貧困が現実に日本で起こっているのか、それともメディアが大げさに騒いでいるだけなのかという点に疑問を感じたため、この研究を始めました。

### 目的

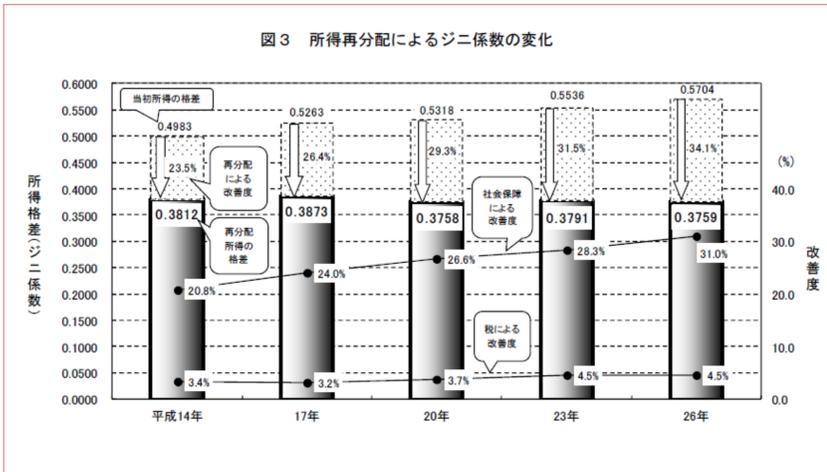
- ①経済格差は本当に深刻化しているのか
- ②貧困が問題視されているが貧困は進んでいるのか この二点を明らかにする。

### 調査方法

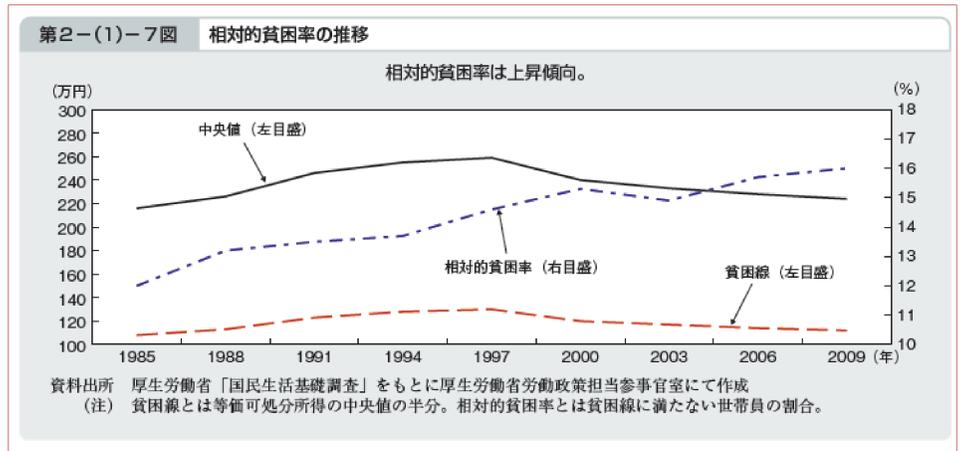
- ・インターネットを使い厚生労働省や消費者庁の調査結果を取得
- ・先行文献を参考とする

### 調査結果

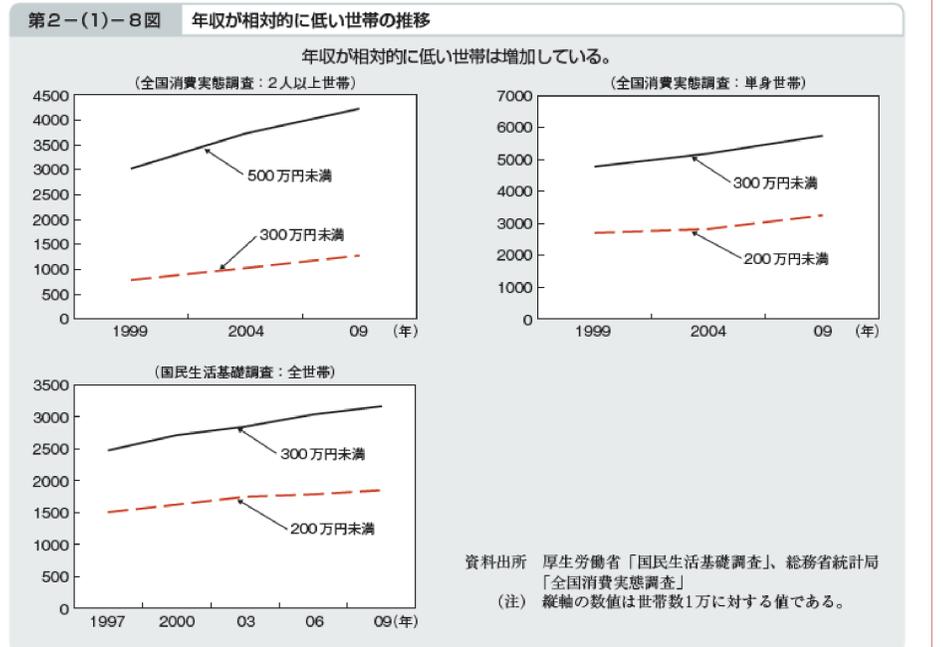
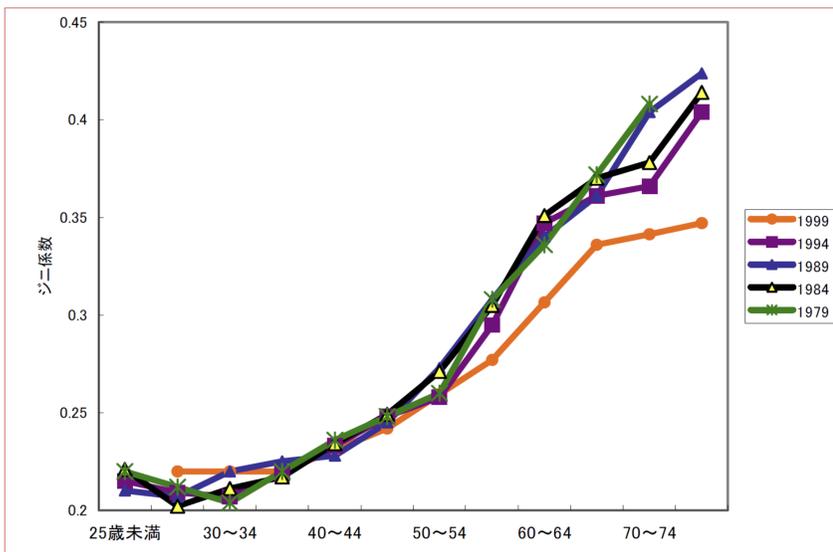
#### ①平成26年度所得分配調査



#### ③貧困・格差の現状と分厚い中間層の復活に向けた課題



#### ②全国消費実態調査年齢別



### 結論

- ① 所得再分配前のジニ係数の値は0.5ポイントと高い値だが所得再分配後の値は0.38前後まで低下しており税、社会保障によって格差は抑えられている。
- ② どの年も同じようなグラフになっており、若年層での所得格差は低く高齢層での格差が大きくなっているように見えるが、高齢化により人口が相対的にこのグラフの右側に集まった結果格差が拡大しているように見えるだけである。高齢層だけでなく、全世代で格差が拡大しているならばグラフが全体的に上に上昇するはずである。
- ③ 相対的貧困率(等価可処分所得の中央値の半分以下の額)が年々上昇をたどっている。
- ④ 年収が相対的に低い世帯(300万円以下、200万円以下ともに)は増加傾向にある。

### 考察

所得再分配前は格差が大きいが社会保障や租税制度などによって格差の拡大は抑えられているだけでなく減少しているといえる。また、高齢層での所得格差の大きさはライフステージが進んでいくにつれて発生する、平等な格差(見せかけの格差)である。よってメディアが騒いでいるほど格差は拡大していないといえる。しかし、相対的貧困率や低所得世帯のグラフを見ると貧困世帯が少なからず増加傾向にあり、これからはボトムの人々に焦点をあてて研究をしていきたいと思った。

### 参考文献

厚生労働省 平成26年所得調査報告書

大竹文雄 所得格差の拡大はあったのか 『日本の所得格差と社会階級』所収 樋口美雄+財務省財務総合政策研究所編著(2003)P11

厚生労働省 平成24年版 労働経済の分析 分厚い中間層に向けた課題 P115

### 謝辞

終始熱心なご指導をくださった愛媛大学法文学部の新関先生、課題研究の様々な調整をいただいた佐伯先生、本当にありがとうございました。